

課題別評価表(6)

取組課題 <p style="text-align: center;">特別支援教育</p>	担当名・指導部名／担当者名 <p style="text-align: center;">特別支援教育／大矢部 朝子</p>	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象の幅は異なる)
取組の柱 1 支援を必要とする子どもの理解 2 保護者や関係機関との連携	実態把握 1 担任を中心に児童の状況・実態を把握し、特別な支援を必要とする児童について個別の指導計画を作成している。この指導計画は学期毎に評価を行ない、より効果的な支援があれば、加筆して指導に生かしている。 2 必要に応じて、学級担任・特別支援コーディネーターが保護者と話し合い、場合によってはスクールカウンセラー・子ども総合支援室、三重県立子ども心身発達医療センター等の専門機関と連携を図り、適切な指導・支援が出来るように努めている。	達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価規準	達成度			
		中間	中間	年度末	年度末
1(1)一人一人の子どもに応じた支援・指導に努める。	各学級担任は個別の指導計画を作成し、学期毎に評価を行ない、支援の方法について見直しをしながら、計画に沿った支援をすることができた。 (教職員アンケートからの評価)	3.5 A	3.5 A	3.7 A	
1(2)特別に支援を必要とする児童について情報を共有するとともに、児童の理解、対応の仕方を共通理解し、指導にあたる。	学年会や職員会議で情報を共有するとともに、校内研修会、事例検討会、小中合同研修会を開催し、参加することができた。 (教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.6 A	3.8 A	
2 学校や家庭の様子を保護者と情報交換し合うとともに、関係機関とも連携を図り、適切な支援ができるように努める。	年間を通じて、保護者や、児童に、スクールカウンセラーによる教育相談を知らせることができた。	/	A	/	

達成度については、 A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		昨年度からの (来年度への)申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
1(1)特別な支援を必要とする児童については個別の指導計画を作成し、個々に応じた支援をしている。学期末には評価を行い、支援方法の見直しをしている。 1(2)職員会議や学年会、生徒指導部会等で支援を必要とする児童についての情報を共有している。 1(2)特別支援教育研修会、保幼小中合同特別支援教育研修会、特別支援学級の研究授業を行い、児童理解、適切な支援について理解を深めた。 2相談室の児童への開放を行い、児童が気軽にスクールカウンセラーに相談ができるようにしている。	A			1 一人一人の子どもに応じた支援・指導の更なる充実 2 保護者や関係機関との連携体制の充実

総合評価については、 A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間